

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

発行／熊本県農業者政治連盟 JA 熊本県会館内 熊本市南千反畑町2-3 電話 096-328-1284 編集責任者 木村 幸季
発行／毎月1回 15日発行 平成9年7月4日第三種郵便物許可

5月号

No.245

主な内容

- ・新たな食料・農業・農村基本計画を決定
- ・口蹄疫予防対策の徹底について
- ・JA あしきた女性部活動報告
- ・ガンバッテいます
(塚田 達さん、辻 和子さん)
- ・各連合会からのお知らせ

つつじ(大津昭和園:写真提供 熊本県)

大津町の町花であるつつじは、昭和園を中心に町内いたる所に約50万本植えられており、例年つつじの開花時期である4月中旬に「大津つつじ祭」が催される。



せせらぎ

鳩山内閣支持率の低下が止まらない。四月二十八、二十九日に実施された世論調査(共同通信社)では、鳩山内閣を支持するが二十・七%、不支持が六四・四%とすでに危険水域に入っている。

これらは、鳩山首相の巨額の政治資金の偽装問題等で元公設第一秘書が有罪判決を受け、更には普天間基地移設問題への首相言動の迷走等が大きく影響しているのは間違いない。

五月一日、鳩山首相が来熊された。これは水俣病犠牲者慰霊祭に、歴代首相初の出席のためであったが、その帰路、JAやつしろの野菜集荷場の視察に立ち寄られた。ここで、JAやつしろ・加未組合長は「新たな食料・農業・農村基本計画」の実施に関する要請や、当面の重要課題である「口蹄疫対策」への国の支援等を要請した。

これらに対して、鳩山首相は「農業を活性化するために、国家プロジェクトを立ち上げ、食料自給率五〇%を達成する」ことを約束。更に口蹄疫対策では「蔓延防止に万全を期すとともに、畜産農家への必要な対策をとる。」ことも約束された。

この後、野菜集荷場に集まった、三百名程の近隣の住民の中に入り、抱かれた子供の頭をなでたり、腕を組んでの記念撮影に应诉たりと、実に人のいいおじさんであった。

「首相、頑張ってください。」
「また八代に来てください。」

鳩山首相は、両手を大きく挙げ、満面の笑みで専用車に乗り込み会場を去られた。この時、鳩山首相はどんな人にもまじめに接し、心の優しい人だと確信した。

今回の世論調査の中で、不支持の理由のトップが「首相の指導力がなし」(四十七%)となつた。この厳しい日本の舵取りは、鳩山首相には向いていないのかもしれない。

新たな食料・農業・農村基本計画を決定

食料自給率50%をめざす

農水省の食料・農業・農村政策審議会は3月29日、今後の10年の農政方針を示す「食料・農業・農村基本計画」を赤松農相に答申、翌30日に閣議決定しました。自民党農政の下で進めてきた、大規模農家に支援施策を集中する農政改革路線を転換し、支援対象に「意欲あるすべての農家」を掲げ、規模にかかわらず多様な経営体を支える農政に組み直すとしています。



【基本計画の内容】(1)

(1) 総論

「まえがき」では、「食料・農業・農村政策を国家戦略の一つとして位置付け」、「国家の最も基本的な責務として、食料の安定供給を将来にわたって確保」等を掲げることにより、国としての役割を明確にするとともに、「国民全体で農業・農村を支える社会」の創造を目指すことが必要と宣言しています。

また、「基本的な方針」では計画の柱として、①「戸別所得補償制度の導入」②「品質」「安全・安心」といった消費者ニーズに適った生産体制への転換③「6次産業化による活力ある農山漁村の再生」を挙げています。

この新たな理念に基づく施策を基本に、各般の施策を一体的に推進する政策体系に農政を大転換させ、食料自給率を50%（供給熱量ベース）に引き上げることを、「食」と「地域」の早急な再生を図ることとしています。

(2) 各論

「食料の安定供給の確保に関する施策」では、「後始末より未然防止」の考え方を基本とし、食の安全や消費者の食に対する信頼を確保することとしています。また、GAP、HACCP、米穀等以外の飲食物品に関するトレーサビリティ制度、加工食品における原産地表示の義務付けの着実な拡大、リスク管理機関を一元化した「食品安全庁」の検討などを記述しています。

また、国民への食料の安定供給に重要な役割を果たしている食品産業の将来方向を、平成22年度に策定することとしているほか、流通面においては、消費者ニーズに合った新商品・メニューの開発等を進めることにより、新たな価値を創造し、国内市場の維持・回復を進めることとしています。

「農業の持続的発展に関する施策」では、施策の大きな柱として、戸別所得補償制度の創設があります。これは、

農業生産のコスト割れを防ぎ、意欲あるすべての農業者が将来にわたって農業を継続し、経営発展に取り組むことができる環境を整備するものです。これと併せて、多様な用途・需要に対応した生産拡大の取組みを後押しすること等により、競争力ある経営体を育成・確保することとしています。これらの推進にあたっては、規模の大小に関わらず、現場の主眼的判断を尊重した多様な努力・取組みを支援する施策を展開することとしています。

また、農地の確保と有効利用を改



▲戸別所得補償制度の県説明会から

正農地制度に基づき着実に推進することや、耕作放棄地再生利用の取組みなどにより、農地面積については、現状の461万haの維持を図ることとしています。

「農村の振興に関する施策」では、「農業・農村の6次産業化」を掲げています。これは、農業と第2次・第3次産業の融合等により、農山漁村に由来する農林水産物、バイオマスなどのあらゆる資源と産業とを結びつける。そして、地域ビジネスの展開と新たな業態の創出を促していくものであり、これらの取組みにより、農山漁村に雇用と所得を確保することとしています。

また、厳しい農村の現状を踏まえ、集落機能の維持と地域資源・環境の保全の観点から、中山間地域直接支払制度や農地・水・環境保全部対策等の今後のあり方を検討することとしています。さらに、農山漁村の将来像を明確化し、国と地方の役割分担により、活性化施策の推進方向を示す農山漁村活性化ビジョンを関係府省連携の下、策定することとしています。

*GAP：農作業記録を点検・評価し、改善点を見出し、次回の作付けに活用するという「農業生産工程の管理手法」。
*HACCP：原料の入荷から製造・出荷までの工程で危害を防止するための重要管理点を特定し、継続的に監視・記録するシステム。

口蹄疫予防対策の徹底について

宮崎県において4月20日に感染力の強い口蹄疫患畜牛の第1例が確認されて以降、5月12日現在において76カ所で発生しています。なかでも4月28日にはえびの市で発生したことから、熊本県は家畜伝染病予防規則に基づき、球磨地域の一部（人吉市、錦町、あさぎり町、相良村の一部）を移動・搬出制限区域に指定しました。

そこで、本県JAグループでは「熊本県農協口蹄疫対策本部」を設置（本部長：園田中央会々長、副本部長：上村経済連会長、吉田略



▲県内9カ所に消毒ポイントを設置

連会長、穴見畜連会長）し、行政機関と連携のもと、当該伝染病の早期清浄化と未発生地域へのまん延防止に取り組むこととしました。

対策本部では、県下の畜産農家及びJAグループ従業員の予防対策を徹底するとともに、国・県への支援要請を検討しています。

畜産農家の予防対策

畜産農家は「口蹄疫防疫管理マニュアル」を遵守する。

JAグループ役職員の予防対策

1. 畜産・酪農家を多数集める会合・イベント等はできるだけ自粛する。
2. 必要以外は、できるだけ畜産・酪農家を訪問しない。
3. 必要な場合は、できるだけ農場・畜舎外への訪問にとどめる。
3. 配達する場合（飼料、生産資材、LPG、油類、食材等）は、農場等へ入る前に消毒を徹底する。
- (1) 手・指及び出入り時に履く長靴
- (2) 配送車のタイヤ・車体の下回り
- (3) できるだけ、畜産・酪農家から畜産・酪農家への連続配達を行わない。

4. 営農指導や金融・共済業務等で畜産・酪農家を訪問する場合も、上記3と同様の消毒等を徹底する。

国・県への支援要請（検討項目）

1. 家畜市場の延期・休止等により出荷できなかった事より生じた損害に対する支援措置
2. 移動・搬出制限区域以外の農家に対する制限区域と同等の支援措置
3. 防疫対策にともない農家や関係団体等が要した経費等にかかる支援措置
4. 的確な風評被害防止対策と食肉の消費拡大および価格対策
5. ウイルス侵入経路の早期解明と抜本的な防疫対策

口蹄疫は、牛、豚等の偶蹄類の動物の病気であり、**人に感染することはありません。**
また、感染畜の肉や牛乳が市場に出回ることはありませんが、感染畜の肉や牛乳を摂取しても人体には影響ありません。【農林水産省】

女性部活動報告

■ J A あしきた女性部報告 ■

J A あしきた女性部は、田浦・芦北・湯浦・津奈木・水俣 5 つの支部で構成されており、寺本眞理子部長率いる部員数は約 920 名です。当組織は県内でも平均年齢が高く、若年層が少ないのですが、元気な部員ばかりです。最近では目的別サークル等、自主活動が増えてきており、活動へ参画する事で、より積極性が増しているようです。活動の一部を紹介致します。

『カンボジアに学校を』

芦北町立大野小学校は、毎年、米作りによる食農教育を行っています。

その米を販売し、カンボジア学校建設募金に協力しています。

その中で女性部は、昼食を担当。地元でとれた農産物を使用して地域住民や保護者と一緒に料理を作っています。又、女性部でも、芦北町産業祭において余剰品販売を行い、売上の一部をカンボジア学校建設募金に寄付しています。



『絵手紙教室』

芦北、湯浦、津奈木、水俣 4 支部にて、毎月開催しています。

毎回、楽しみながら、わきあいあいの中で行っています。各基幹支所の窓口などに常時展示して来店されるお客様に喜んでいただいているようです。又、女性部のイベントや町のイベント時にも展示を行い、女性部活動をアピールしています。



『料理教室』

芦北… (家の光料理教室) 家の光を教材に部員全員が講師となり、毎月開催しています。

津奈木… (ヘルシークッキング教室) 厚生連の管理栄養士さんを講師にメタボ予防や生活習慣病予防に役立つ教室です。

水俣… (Aマーク食楽部) 会長の鶴田フデ子さんを中心にAコープマーク品を使用した料理講習会です。

(料理教室) 管理栄養士さんを講師に毎月開催しています。



『廃油せっけんづくり』

芦北支部では、家庭から出た廃油を回収し、廃油せっけんづくりをしています。

出来上がったせっけんは、きれいにラッピングして小学校の卒業式にプレゼントしたり、又、J A あしきたファーマーズマーケット “でこぼん” で販売をおこなっています。





塚田 達さん
JAれいほく 酪農部長

JAれいほく酪農部長塚田さんのお宅(〒北都呂々)を訪問しました。

塚田さんは、昭和11年8月生まれの73歳。昭和29年から平成5年までの39・5年間、地元JAに勤務されてきました。また、平成7年に地元町会議員に初当選以来、4期目の現在も、町発展のため精力的に活動されています。

「酪農を始めたのは昭和38年からで、もなく50周年を迎えます。JA勤務のかたわら酪農を行っています。両親と妻の手を借りての経営で大変でした。最高で70頭飼育していたこともあります。現在は24頭飼育しており、うち17頭が搾乳牛で残りは乾乳期の乳牛と育成牛です。また、子牛生産は黒毛和牛の受精卵をホルスタイン牛の母胎に移植して育てています。」と、これまでの経過と現況を語られました。

借金1億円を完済

「昭和55年に当時8頭飼育していましたが、30頭北海道からホルスタイン牛を導入し、規模拡大を図りました。しかし、生乳の生産調整や配合飼料の高騰により、導入資

金等の返済が滞り、最高で1億円まで借入金が増えました。その後、経営努力を重ね平成12年までにほぼ完済することができました。JAと協議の上、一部金利減免の措置も受けましたが、当時は金利も高かったため、元利合計で2億円は返済したことになります。」と、当時を回想されました。

国家公務員並みの給料を！

「16年前から長男(46歳)が、4年前からは次男(44歳)が酪農経営に携わるようになりました。給料制にしており、社会保険、厚生年金、労災・雇用保険にも加入しています。しかし、満足のいく額ではないので、ゆくゆくは国家公務員並みの給料を支払えるようになればと思っています。」そのため、「飼育頭数を増やすこと、自家生産の牧草を増やすこと、導入牛をやめて良質のホルスタイン受精卵移植を行い、自前の牛を育てる事と、今後の抱負を熱く語りられました。

一人の後継者に恵まれた塚田さんは、現在、主な労働からは解放されて、酪農経営や議員活動の合間を見ては、趣味の囲碁や民謡教室に通い、地元住民の方々とのふれあいを大事にし、人生を謳歌されています。

好きな言葉

色即是空「すべてであると思つた、ないと思つた。自分の考え方によって物事は如何様にもなる。人生は如何に困難なことにならなければならない、悲観するに当らない。」と、人生訓を語っていただきました。



部会生産者 辻 和子さん
JA熊本市直売所「夢未来」

近年、直売所が注目されています。そこで今回は、直売所で頑張っている生産者の方に、お話を伺うことにしました。

何もしなくてもいい

辻さんは、御年78歳になる農業の大ベテラン。実家が野菜農家だったため、小さいころから農業を手伝い、結婚した後も続けていらっしゃいます。

現在出荷されている野菜は、全て辻さん一人で作っています。「草刈機、小型の耕運機も使いますよ。」

今の時期はブロッコリー、キャベツ、ソラマメ、グリーンピース、ふだん草、小ねぎを生産しています。全てEM菌入りボカシ肥料を使用。「甘味があっておいしい」「使っていない野菜と全然違う」とお客様にも好評です。

始まりは日曜市場から

「地元野菜をなんとか活用したい」との思いから、日曜限定「ふれあい市場」を開設。参加者は辻さん達二〜三人でした。約一年後、好評だったことから、

JA熊本市の支援を受けて、現在の直売所になりました。現在は167名の生産者が直売所関係に出荷しています。月1回ごとに実演試食販売会を開催。5月は子供の日にちなんで、ちまき作りを開催。辻さん達が教師役となって、葉の巻き方を指導しました。

直売所でのお仕事

辻さんは、毎日5時半に野菜を朝採りします。そして8時半までに直売所へ搬入。その後、直売所横で、お茶を飲みながら商品のリサーチ(何が人気か、何が始めているか、価格調整など)。また、お客様へ野菜料理のアドバイスまでこなします。

「直売所は生きがいであり、楽しみ、ふれあいの場所です。儲けとかは関係なく、ずっと続けたい。」と辻さん。また、これからの目標として、「これから、肥後野菜にも挑戦してみたい。それから生涯現役で野菜作りを続けていきたい」と思っています」と、話されました。



▲直売所「夢未来」店内

……JA中央会……

口蹄疫対策に全力！

熊本県農協口蹄疫対策本部委員会開く

熊本県農協口蹄疫対策本部は4月30日、対策本部委員会を開催（対策本部委員や関係団体担当者ら約40名が出席）しました。

同委員会では、20日の宮崎県における1例目から当日確認された12例目までの、情報及び九州各県の行政機関並びにJAグループによる対応について経過報告等を行いました。

また、本県においては県南部の球磨地方の一部が、家畜伝染病予防法に基づき移動制限区域並びに搬出制限区域に指定されました。このため、県内各政党等に対して「口蹄疫」の防疫及び農家の経営支援について要請しました。

同対策本部では当面の対策として①農家の意識向上と消毒等による防疫の徹底②JAグループ熊本としての要請活動③JA役員への防疫対策の周知徹底を行うことを決めました。



▲本部委員会で挨拶を行う園田俊宏本部長

平成22年度「熊本県JA農業インターン事業」開講式



▲緊張した様子で合同辞令を受け取る研修生

JA熊本中央会は4月5日、今年度で6回目となる「熊本県JA農業インターン事業」の開講式を熊本市で開催しました。インターン18名や新規卒業者5名を含む35名（全国から66名が応募、うち57名を面接選考）が入講しました。

まず、主催者として園田俊宏中央会会長があいさつし、辞令状を手渡ししました。これまでの5年間で88人が入講し、現在その内56名が就職・独立しています。

今年度も、同中央会の臨時職員（農業研修生）として雇用し、受け入れ農家等へ出向あるいは出張させています。賃金も住宅手当等を含み月額13万5000円が支給されます。

研修生の内訳は、男性31人、女性は4人で、インターンが18人、Uターン11人、うち県外から3人となっています。

……JA経済連……

冷凍米飯愛食運動進発式

JA熊本経済連は、4月26日、JAグループ熊本で展開している冷凍米飯愛食運動の進発式を行いました。熊本県や、県内JA・女性協や青壮年部などおよそ90名が出席しました。

冷凍米飯愛食運動推進本部長の上村幸男経済連会長は、「おいしい熊本の米の消費拡大に留まらず、熊本の自然の水を守る運動として、この理念が私たちJAグループ熊本の思いとして、多くの消費者へ届くことを願い、JAらしく、力強く愛食運動を進めていきたい」とあいさつしました。

この冷凍炒飯は、食と農に関する取り組みや食の安全・安心の確保が求められる、国産農畜産物への需要が高まっている中、熊本の農業・米を守るため、経済連の子会社ユーフォーブス(株)が開発されたオリジナル商品です。

二年目の取り組みを迎えた今年、商品を一リニューアル。「こんごつ風炒飯」はさらに美味しくグレードアップ、「太平洋燕炒飯」はさらに風味豊かにし、再登場。今年新たに「火の国炒飯」を開発しました。火の国熊本の色をイメージした、もやしと白菜キムチ入りの甘辛い深みのある炒飯。それぞれ230gと食べやすい量となりました。

「冷凍米飯愛食運動」とは、地産地消運動の一環で、農家・組合員が「自

然と水」を共存しながら農畜産物を育むために、消費者と共に参画して頂く運動です。同経済連の担当者は、「食うぞ。まるごと。もりもりと。」を合言葉に、ときめきを奏でる三重奏のこだわり炒飯を是非、多くの人に食べていただきたい。」と話しています。また、お問い合わせのフリーダイヤルも設置。

JAグループ熊本は、県内のAコープ店舗やYou+Youくまもと農畜産物市場、JAあしきたでこぼんなどで販売しています。この炒飯をお買い上げいただき、応募されると、抽選で6月19日に小国ドームで開催の「海援隊トーク&ライブ2010」のチケットを、ペアで50組にプレゼントするキャンペーンも実施しています。

フリーダイヤル：0120-5801371（午前9時から午後5時）



▲愛食運動に向けてガンバロウ三唱

「反射リストバンド」 7万5千本を贈呈!!

「夜間の歩行者・自転車交通事故防止のため」

去る4月26日(月)、J A 共済連熊本4階会議室において「反射リストバンド」の贈呈式を行いました。

J A 共済では、毎年「春の全国交通安全運動」に協力・協賛しており、「反射リストバンド」7万5千本を熊本県警察本部へ寄贈しました。これらは、夜間の歩行者や自転車の交通事故防止

を目的に作成したもので、寄贈した「反射リストバンド」は、各警察署を通じて、主に県内の高齢者や小中学生に配布されることになっています。

J A 共済では、これまでも交通事故対策として、救急自動車や交通安全指導車、カーブミラーなどの寄贈を行ってきました。また、園児に向けて歌いながら交通ルールが身につく、楽しいミュージカル形式の交通安全教室や、高齢者向けに、5人の落語家による笑い満載の「交通安全落語」なども開催しています。今後交通安全思想を幅広く社会に訴えていくことを目的に、さらなる努力を続けていきます。



▲「反射リストバンド」を県警本部富永交通部長に贈呈する園田会長



コラム 食と農

新番組がスタートしました

J Aグループでは、安全・安心な国産農畜産物を提供する取り組みとともに、食のあり方や食料自給率の向上をアピールするため、「食は、日本の未来。」をテーマに「みんなのよい食プロジェクト」を展開しています。

さて、J Aグループはこのほど、「みんなのよい食プロジェクト」に関わる取り組みや情報を紹介し、視聴者の皆様に「よい食」の行動を起こしていただくきっかけづくりを目的として、新たにテレビ番組の提供を開始します。

どうぞご期待下さい。

<テレビ提供番組：「にじいろジーン」>

【放送日時】毎週土曜 午前8：30～9：55

【放送局】関西テレビ・フジテレビ系列全国28局ネット

【司会】山口智充、ガレッジセール(川田・ゴリ)、ベッキー

【レギュラー】佐藤唯、川島壮雄(関西テレビアナウンサー)

【番組概要】人が生きていくうえで必要な3つの柱である「衣」「食」「住」をテーマの根底に据え、その先におのずと見えてくる「人々の幸せな生活」を視聴者の皆様にお届けする番組です。毎週、インフォマーシャルを通じて、様々な「よい食」に関わる取り組みやトピックスをご紹介します。

「よい食クイズ」

Q. 水田で作らないお米がある。

ウソ?

ホント?

←正解は裏面へ



安心を選んで組み合わせる
新しい医療保障です。

詳しくは、お近くのJA（農協）へ
お問い合わせください。
■ホームページアドレス
<http://www.ja-kyosai.or.jp>

新 JAの医療共済

サンキューふれあいキャンペーン実施中！ <http://www.3qja.jp> 10481050159

毎月18日は、「弁当の日」



基本的ルール…

役職員自らが

- ①県産品・国産の素材を購入します
- ②自分で作って持参します

「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、食への理解促進と自給率向上、米の消費拡大等を役職員全員で取り組みましょう。



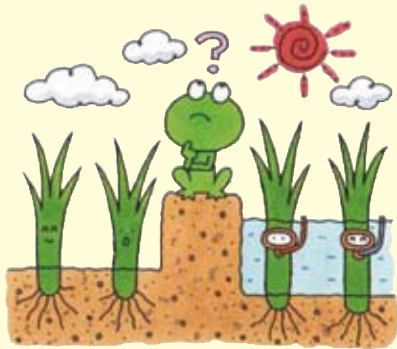
JA 熊本中央会

【よい食クイズ】

答え：ホント

田んぼといえば、水を張った水田を思い浮かべる人が多いでしょう。でも、畑で栽培するイネもあるのです。水田で育てるイネを「水稲（すいとう）」、畑で育てるイネを「陸稲（りくとう）」といいます。

JA全中発行「ごはんちゃんのお米クイズ（生活編）」より転載



JAグループ熊本

冷凍米飯愛食運動推進本部
くまもと売れる米づくり推進本部

食うぞ。まんに。もりもりと！！

とまめま、突てる三三三。

あしがき

●キジ(雉)

キジ目キジ科の鳥、日本の国鳥。



大きさは雌雄で差があり、オスは全長80cm（メスは60cm）前後で、翼と尾羽を除く体色が全体的に美しい緑色をしており、頭部の羽毛は青緑色で、目の周りに赤い肉腫がある。飛ぶのは苦手だが走るの早い（時速32kmを記録した実験例もある）。

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-328-1284
FAX 096-328-5807